

平成 24 年度教育事業実施報告

国立沖縄青少年交流の家

- 1 教育事業名 ボランティア自主企画事業「とかしきわくわくキャンプ」
 2 期 日 平成 24 年 7 月 7 日 (土) ~ 8 日 (日) 1 泊 2 日
 3 場 所 国立沖縄青少年交流の家
 4 募集定員 70 名程度
 5 参加人数 52 名
 6 参加者内訳 小学生 37 名、中学生 15 名
 (男性 26 名、女性 26 名) (県内 52 名)
 7 講師 なし。企画・運営：法人ボランティア 12 名

8 実施プログラム

7月7日 (土)

	集合	移動	オーフニング	昼食	仲間づくり テント設営	火おこし 野外炊飯	キャンプ ファイヤー ^{レクリエー} ション 星空観察	シャワー	就寝 (テント泊)

7月8日 (日)

6:00 7:00 7:30 9:00 12:00 13:00 14:40 15:20 16:00 17:10 17:30

起床 洗面	つどい	朝食 テント撤収	海洋研修	シャワー 昼食	清掃 ふりかえり	エンドィング	移動	出港	解散式	解散

9 事業の様子



仲間づくり

野外炊飯

一日のふりかえり



ボランティアによる指導



海洋研修



10 参加者の声

(ボランティア)

- ・ボランティアスタッフで企画・運営し、一人ひとりの役割を通じて成長を感じた。
- ・スタッフ同士声をかけ合い助け合って運営を行った。大変だったけど、無事に終わり、達成感でいっぱい。
- ・企画実施の難しさを感じることができた。運営進行の担当だけでなく、もっと自分も周りを見て行動しないといけないと思った。
- ・ボランティアの概念が覆され、新たな意識が芽生え、その意識も大きく向上したと思う。自分の意識と、それに応えてくれるものがあった事が向上に繋がったと思う。
- ・人のため自分のため、その両方を達成できることを頭に入れながら、色々な事業に積極的に参加していきたい。

(参加者)

- ・学校では学べないことを学べたからよかった。
- ・いろいろな人と交流できた。
- ・やったことないものができるよかったです。
- ・年齢に関係なく、人と話すことができるようになった。
- ・班行動は一人がいなくなったら、みんなに迷惑をかけるということが新しい発見だった。

11 担当者所見

本事業は、ボランティアがこれまで培ったボランティアとしての知識・技能・経験を活かし、自然体験活動における実践的な取り組みをとおして、ボランティアとしての意識の向上を図るとともに、参加者には集団宿泊体験をとおして、仲間との交流、協働、協力の大切さや自然体験活動の魅力を伝えることをねらいとして実施した。

前年度より、事業企画から実施までの期間が限られており、ボランティアの本事業に対する積極性が求められた。これまでの経験が活かされ、ゆとりを考えたプログラム運営や子どもたちに対する教育的な配慮等、ボランティアの成長が窺われた。

参加者はボランティアの的確な指導・運営のもと、いきいきと活動に打ち込んでいた。

次年度は、ボランティアが自主企画する事業として、企画・準備に十分時間がとれるような配慮をしていきたい。